

2019年度 放送番組審議会 議事録

(株式会社ジェイコム九州 熊本局)

日 時：2020年2月18日(火) 14:00~16:00

場 所：株式会社ジェイコム九州 熊本局 会議室

出席者

委 員：宮園 博光氏(会長)、熊宮 敏紘氏、安田 二郎氏、平井 英虎氏、石井 美代子氏

事務局：株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長 徳田 瑞穂

熊本局 取締役熊本局長 前田 貴敏、局長補佐 田中 恒成

地域プロデューサー 河村 文治 濱 孝太郎

地域コミュニケーション統括部 統括部長 仲川 圭、熊本事務所長 井手 誠也、

熊本事務所 牧 幸生、中村 文香

●司会進行 宮園会長

1、徳田社長 開会挨拶

2019年度はラグビーワールドカップや、女子ハンドボール世界選手権もありイベントの多い年だった。そのため、特別番組も多かった。また、熊本城マラソンのようなイベントは熊本のみなさんが地元の復興のために、継続して行っていきたくて強く思っている。その支援をコミチャンを含めてできればと思う。本日は、番組全体的な番組についてご審議頂きたい。

2、番組審議会 審議委員について

宮園委員) 今回は、2名の委員が新任された。(新任：平井委員、石井委員)

本日の審議会には、委員5人中5名が出席。株式会社ジェイコム九州
放送番組審議会規定第4条に基づき、当会は成立。

3、会長、副会長選出

宮園会長) 今回2名の委員が新任されたため、株式会社ジェイコム九州放送番組審議会第3条3項に基づき、会長・副会長を新たに選任したい。

熊宮委員) 会長に宮園委員、副会長に安田委員を推薦したい。

委員一同) 異議なし。

宮園会長) 他薦のうえ異議なしということで、

会長に宮園、副会長に安田委員を選任する。また、今年度における自主番組放送基準等の変更はなし。

4、議題1

2019年度自主制作番組実績について

- ① コミュニティチャンネル概要説明
- ② J:COM 組織改定の説明
- ③ 地域情報アプリ「ど・ろーかる」のリニューアル機能紹介
- ④ レギュラー番組の紹介

⇒各番組のダイジェストを放送し、説明。

- ★デイリーニュース（地域ニュース・中体連・大西市長子ども質問室）
- ★熊本人図鑑
- ★ひご・散歩
- ★ジモスポ KUMAMOTO

- ⑤ 特別番組等の紹介

⇒番組のダイジェストを放送し、説明。

- ★災害への取り組み
- ★熊本地震復興祈念特別番組
- ★議会議員選挙開票速報（熊本市・合志市・益城町・菊陽町）
- ★全国都道府県対抗 e スポーツ選手権 2019 IBARAKI 熊本県予選会
- ★藤崎八幡宮例大祭
- ★女性活躍サミット 2020 HigoROCKa
- ★江津湖花火大会 2019 「ど・ろーかる」アプリへの配信

5、番組審議「ジモスポ KUMAMOTO」

6、議題1・番組審議の質疑応答

委員) いろんなスポーツが多様化している。多様化しているなかで、eスポーツや3x3などが、熊本の中で大会として行われているということ地域番組として紹介していただいていたありがたい。また、パブリックビューイングなどスポーツの新しい楽しみ方ができたのは面白いと思う。

委員) パブリックビューイングは、サッカー観戦で初めて見たが、あの臨場感は外での観戦と同じように見ることができると思った。

委員) ひご・散歩など、次回の内容の告知は番組内で行っていないのか？

事務局) 番組内では行っていない。スポットで番宣のCMを放送している。

また、LIVE マルチ情報館の番組内(静止画)で宣伝するなどしている。

しかし、ご指摘の通りプロモーションが足りていないと感じる。

制作スケジュールの前倒しができておらず、間に合っていない現状があるので改善していく必要がある。

委員) 回次の放送について番組内で分かれば、視聴者も「また見たい」と思う。

委員) 特番が増えているように思うが、例年通りか？

事務局) 年々、特別番組は増えている。

委員) 特番からレギュラー化する流れもあるとよい。

事務局) 特番が増えている理由のひとつとしては、

視聴者から人気が高いのでは？と思われるコンテンツをまずは特番化し、

反応を見ているから、というのがある。熊本市中体連、藤崎八幡宮例大祭は熊本ケーブルネットワーク時代から長年放送しているので、

特別なプロモーションをしなくても、熊本のみなさんに知られている。

しかし、Bリーグの中継などの認知はまだ足りていない。やはり、特番の放送を継続して行っていかなければ、認知度向上には繋がらないと思う。

事務局) 特に昨年はラグビー熱が高かったので取材でもラグビーを取り上げることが多かった。熊本県と一緒にJ:COMではRWCの機運醸成イベントを実施した。J:COMエリア外の天草などでも実施した。実際にイベントの運営も関わらせて頂き、地域の方々がスポーツを見てひとつに盛り上がる熱気のすごさを感じることができた。

委員) 飲食ができない場所もあったので、飲食できると観客がさらに楽しく観戦することができると思う。

事務局) ラグビーはアルコールがあったので、特に盛り上がった。

飲食できるかどうかで集まる人数も違う。

J:COMエリア外のパブリックビューイングを実施したときは、ホテルを貸し切ってパブリックビューイングを数回実施したが、満員だった。新たなラグビーファンの増加にも繋げるためには、よい盛り上がりだったと思う。

委員) 商業スペースでのパブリックビューイングは非常に有効的だと思う。

経済活性化にも繋がるのではと思う。

事務局) 熊本市の新市街アーケードでもパブリックビューイングを実施し、大盛況だった。アルコールの提供や飲食ができたのも要因である。

事務局) 4Kのモニターなど、大型モニターにいい画質のものを使えるようになってきているのもパブリックビューイングをメリットのひとつ。今後、外で観戦できるスポーツが増える。

委員) 東京オリンピックの放映は、J:COMでは決まっているか。

事務局) まだ、決まってはいるが、NHK・民放が放送しないスポーツを取り扱う予定。全国放送のJ:COMテレビで放送する予定。併せて、パブリックビューイングの実施をする動きも出てきている状況ではある。各自治体によって、東京オリンピック・パラリンピックに関連したイベントを行う動きが出てくる頃なのでJ:COMとしてもお手伝いできることがあればと思う。

委員) 熊本で実施される、5月の聖火リレーの対応は何か行っているか？

事務局) 聖火リレーは熊本県が実施。ガイドラインや県域放送であることなどの制限がありJ:COMで取り扱うのができる部分とできない部分がある。パラリンピックなどで積極的に自治体ビジネスとして動き、放送に繋がれるようになればと思う。

委員) オリンピックに関連して、例えば学校で子供たちが地域で外国人選手を応援するような取り組みなどを継続して紹介していけば面白いのではないかと
思う。

委員) オリンピックでは、ハンドボールはマイナースポーツ。

熊本でそういった取り組みを放送すると、興味を持った子供たちに見てもらえると思う。今年は、熊本県内でインドネシアのバドミントンチームとドイツの水泳チームが東京オリンピックに向けた合宿をするのでそれがひとつの材料になると思う。アスリートを取り上げて頂いているが、熊本はマスターズや生涯スポーツで有名なチームもあるのでぜひ取り上げていただきたい。

事務局) 善処する。世界水泳のマスターズが、2021年水球が熊本で行われる。J:COMとして大会に向けてコミットできればと思う。NHKや民放との動向を見ながら、権利者の意見なども踏まえて取り組んでいく。

委員) 地域の人が参加する番組増えたように感じる。今の若い人たちの情報の受け取り方は、プッシュ型でやらないと受け取ってもらえない。アプリを活用し、プッシュ型で情報を提供して、番組視聴に繋がってもらえるような道筋をどのようにつけていくのが課題とを感じる。

委員) ひご・散歩よく視聴している。熊本市では、次年度から地域文化財制度を各区役所で設立するようになった。これは、地域で根強く残っている歴史的なものを各区で地域の文化財として取り上げ、地域を盛り上げようというもの。

ぜひ、番組内で取り上げていただければと思う。

事務局) ぜひ番組内で取材させて頂きたい。

事務局) J:COM グループとしては、アーカイブ映像を豊富には持っていない。

ケーブルテレビとして地域の景勝地や人物を映像として残し、
アーカイブを後世に伝えるということがコンテンツとして価値が上がること
だと考えている。委員の意見を伺いたい。

委員) 熊本地震で被災する前と後が分かる熊本城の番組があっても面白いと思う。

事務局) 熊本地震前に、熊本城を取り扱った番組を放送していた。貴重なアーカイブに
なっていると思う。また、熊本城の震災前の空撮映像も持っている。
アーカイブ映像をどう有効活用していくのか、どう運用していくのが
今後の課題である。

委員) データ残っているだけではアーカイブにはならない。
データベース化するには、お金と費用も掛かる。

6、議題 2

自主制作番組 2020年度方針について

7、議題 2 の質疑応答

事務局) 2020 年度の戦略について、忌憚ない意見を頂きたい。

委員) まちづくりの観点から話していくと、益城町では熊本地震からの復旧事業から
復興事業へとフェーズが変わった。その中で、益城町と商工会が出資して
賑わい創出のため、まちづくりの会社を設置した。ぜひこの取り組みに
関して、J:COM とタイアップして行っていただければと思う。

事務局) 益城町災害公営住宅は、J:COM の幹線は入れる予定で進めている。
エリアの場所にもよるが、ぜひ J:COM としてもご協力できればと思う。
J:COM は、総合インフラ事業であるので、地域の方々のまちづくりに貢献
できればと思う。J:COM のサービスは生活支援サービスとしている。
地域課題を解決するためのサービスを提案する、というコンセプトで事業を
行っているのもまちづくりにおいても、何らかのお手伝いができればと思う。

委員) 熊本市の街中のイベントは情報が分かっているので、
ぜひ情報提供できればと思う。

委員) 熊本市の校区・区単位の情報発信は、行政側としてもやっていきたい。

やり方が分からず、手探りの部分があるので J:COM と一緒にできればと思う。まちづくりセンター単位でもいいので、情報発信の場があれば行政側としても大変ありがたい。

事務局) 本来細かく地区を区切った情報を発信するべきだが、熊本市だけでもエリアがかなり広い。例えば、区ごとの番組を作ることができないかと考えている。もっと狭域な情報を発信する必要がある。J:COM チャンネルとしては現在、ウルトラハウスと共同で自治会の情報発信を行っている。また、地域の情報発信という意味では、エリア特派員制度がある。日々、区ごとの狭域の情報をデイリーニュース内で発信して頂いている。リソースに限られる中、震災発生時のときのネットワークとして取り組んでいる。自治体の情報発信と一緒に行えば、よりよいものになるのではないかと思う。

事務局) 地域の情報発信のツールとして、ど・ろーかるアプリがある。これは投稿機能もあり、地域の人たちが投稿できるもの。地域の人たちと一緒に番組編成を行う必要があると感じる。現在、メディアは一方的なものではなく誰もが情報を発信できる時代。

委員) SNS 的な感覚で情報を発信していくというものか。

事務局) SNS ではフェイクニュースなどもあるので、必ず情報元は吟味しながら放送する必要がある。

委員) SNS の情報は、今問題もあるので気を付けていただきたい。

事務局) SNS で上がってきた情報をすべて放送するというものではない。投稿者が誰なのか、信頼できる関係性を構築した上で SNS で投稿された情報を放送していく。

9、前田局長 閉会挨拶

会社としてはインフラ、放送局、イベンター、さまざまな側面を持っているが、我々がやらなければいけないものは「この街の役に立てているのか」ということであり、J:COM エリアの住民のみなさんのお役に立てればと思う。

その中で、J:COM チャンネルは J:COM が持つツールの中心として今後も運営していきたいと考えている。本日、委員の方々から頂いた貴重なご意見を参考にしていきたい。また、それぞれの地域によってやるべきことは違う。各自治体の首長と、日頃のコミュニケーションを通して少しでもお役に立つことができればと思う。

以上